

「中国南京研修 参加報告書」

京都大学 文学部 2年 杉谷倫生

今回の短期留学に関して、出発前私はかなり不安を抱いていた。今年度京都大学からこの中国研修に参加するのは私だけとのことだったので、知り合いが一人も居ない異国の地に放り出されることになったのである。実際最初の1週間ほどは結構なホームシックであった。しかし、日本語が使えない環境で種々の手続きをなんとか自力で行ったり、現地の人々や留学生とコミュニケーションを取ったりしたことは、結果としては非常に良い経験であった。

留学中は日常生活の中でも中国語を話す機会はたくさんあったが、自分の言いたい事が上手く言えず、勉強不足を思い知らされた。1ヶ月の留学を終えて、中国語の語学力が飛躍的に向上したというよりも、今後の学習のモチベーションになったというのが正直な感想である。これから更に中国語の学習に励み、次は長期留学に挑戦したいと思っている。

中国での生活で感じた日本との大きな違いは、衛生感覚と交通事情の差である。中国の飲食店、市場などの付近は、日本に比べるとかなり不潔である。掃除をしている場所であっても、通りを歩けば常に何かの臭いがした。また電動スクーターが普及しており、背後から音もなく追い抜いていくためヒヤッとすることがあった。交通量が多いこともあって、乗用車もスクーターも頻繁にクラクションを鳴らすため、落ち込んでいるときにやられると悲しくなる。ちなみにバス・地下鉄・タクシー・高速鉄道(新幹線)など、公共交通は日本よりもずっと安く、出かけるのに便利である。このような違いにより、慣れるまでは軽いカルチャーショックがあった。外出するたびに常識が剥がれ落ちていく感覚は、海外で生活しなければ味わえないものである。

授業は基本的に全て中国語で行われ、指定のテキストに沿って進められる。前述の通り京都大学から参加したのは私一人であったので、日本の他大学のクラスに入らせてもらった。中国の朝は早く、8時の始業が個人的にはきつかった。南京大学の留学生用の設備は、私が予想していた以上に良く整っており、宿舎や教室棟は京都大学よりも規模が大きい。

中国語は今後の専攻研究、就職後に活用することになると思われるため、今回の語学研修は良い刺激であったが、それ以上に母国語の通じない海外で試行錯誤しながら生活するということが、大変めになる経験になった。このような経験は早くして損になることはないと思うので、1年生からでも挑戦する価値があるだろう。少なくとも私はもっと早く経験していればよかったと感じている。